

ありがとうございました。



苦しくも楽しい充実した期間でした

前町長 土屋 清

私こと、この度、二月二十七日をもちまして町長の職を退任いたしました。

二期八年間、些かなりとも御代田の町づくりに足跡を残せたのも、皆様の温かいご理解とご協力・ご参加があったればこそと衷心より厚く感謝と御礼を申し上げます。

例えば、就任以来与えられた課題は、世界に類のない速度で進む少子高齢化、私たちが未だかつて経験したことのない人口減少社会にあつて、御代田町の存続を可能にするためにはどうすべきか、低成長時代の中、肥大化した行政運営をどう再構築するか。同時に、行政の責務として一日たりとも怠ることのできない、町民誰もが、何時でも何処でも生き甲斐を持って生活できる、社会保障制度の充実でありました。



御代田町は、早くから少子高齢社会の到来を予測し、財政余力のある内に生活基盤の整備を行ってまいりました。私は町長に就任してから、それらの有効利用を図り、ハードからソフトへの政策転換を行いました。しかしながら、「人は古きに馴染む」と言われるように、変化への抵抗は予想以上に、総論賛成各論反対の八年でもありました。特に、都市化が進むほどに、家庭・地域・町への帰属意識・連帯は希薄化が進み、反面、権利と個中心的な考えは広がり、意見や要望は複雑多様化し、行政運営の難しさを常に感じていた期間でもありました。町づくりは、理解と協力・参加が不可欠です。そのためには、誰もが関心を持ち、御代田町の将来を考える課題が必要でありました。それが、行政改革の最たるものとも言える、市町村合併であり、合併協議会に参画することでありました。

結果、住民の総意で自立を選択し、平成十六年を自立元年とし、新たな誓いの下、『自律協働の町づくり』を決意したわけであります。その基本は、合併協議の貴重な体験を活かしたものです。住民と行政の役割分担を見直し、自助・共助・公助の考えに立ち、人口減少時代、地方分権の時代にあつても自己決定・自己責任の下、全ての町民が力を結集し、苦しくても汗を流すことと

し、持続ある町づくりの第一歩を踏み出しました。振り返って、この作業ほど、御代田町住民としての一体感が生まれた期間はなかったと思います。

また、この合併協議で、「我々は、日常生活に欠かせない施設を保有していなければ、自立した自治体とはいえない」ということを痛切に感じました。それがゴミ処理施設でありました。

地域の要望を踏まえ、住民参加と情報公開を行い、環境影響調査作業終了後において、住民皆様と膝を交えて議論討論し、最終決定するという道筋を閉ざしてしまつた事、そして、今日尚ゴミに対する悪い潜在意識が拭い去られていない、このことを的確に把握し、理解を求め時間を惜しんだ結果と、ご協力いただいた皆様には誠に申し訳なく、残念でなりません。

自立を選択した御代田町、その道程が明確に見えてきたかと問われると『道、半ば』と言わざるを得ない状況であります。少しの油断から、坂を転げ落ちる危険を常に含んでいることも事実で、これから正念場であると思います。

町づくりは継続です。自立を選択した時の決意を改めて思い起こし、将来像とした『豊かな自然と温かな心が響きあい、新たな未来が創造できる』そんな御代田町の建設を願って止みません。

終わりにあたり、苦しくも楽しい二期、八年でありました。貴重な経験もできました。これも偏に町民皆様のお力添えのお蔭と、改めて感謝申し上げます。御代田町の限りない発展と、町民皆様のご健勝・ご多幸を祈念申し上げます。退任の挨拶といたします。



多くの出会いと数々の体験は貴重な財産となりました

前助役 内堀 真次

あらゆるものが躍動する春を間近にし、町民の皆様におかれましては、お健やかに過ごしてのこととお慶び申し上げます。

私こと、この度二月二十七日をもちまして御代田町助役を辞任いたしました。三年十ヶ月余、土屋町政の基本方針とする御代田町の発展と『この町に住んで良かった』と思える町づくりのために、微力ではありましたが参画することができ、御代田町のために働くことができたことは、私にとりまして畢生の光栄であります。また、多くの方々との出会いと数々の体験は、



生涯忘れることのできない貴重な財産となりました。今日まで、ご指導・ご鞭撻を賜りました町民の皆様、心から感謝と御礼を申し上げます。

御代田町は、産業の振興、生活基盤の整備等により、安全で住みやすい町へと発展を遂げ、人口も増加して参りました。そして自立の道を選択し、昨年、町制施行五十周年を迎え、新たな一歩を踏み出したわけであります。しかし、少子高齢化社会への対応、エコステーション整備計画、中学校建て替え等の大きな課題が山積しております。このような時こそ、自立的な地域社会における自助・共助・公助を基本として、町民皆様と行政が力を合わせて、助け合い協力して、自立のための財政基盤の確立を図り、自治体間の競争に勝ち抜いていくことが大事なことでありと思ひます。

今後は、貴重な経験を活かし、一町民として町・地域のために、いささかなりとも寄与すべく努める所存でありますので、相変わらずぬぐ厚誼を賜りますようお願いを申し上げます。

最後に、謹んで御代田町の限りないご発展と、町民皆様方のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。辞任の挨拶といたします。

二年十一ヶ月間のご支援に感謝申し上げます

前教育長 櫻井 雄一

今年の冬は、地球温暖化が現実のものとなる事を予感されるような暖かい日が続きました。町民の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

私こと、この度、任期途中ではありますが、二月二十七日をもって教育長を辞任させていただきます。

平成十六年三月三十一日に御代田北小学校を退職し、翌日の四月一日に教育長に就任しました。二年十一月という短い期間ではございましたが、町民の皆様の温かいご支援のお蔭で、教育長という重責を務めることができました事、心から感謝申し上げます。

振り返ってみますと、学校教育において『信州こまやか教育プラン』の下に、30人規模学級となり、南小学校では児童数の増加に伴い、教室の不足が予想され6教室を増設しました。統合中学校として建設された御代田中学校は、間もなく50年になるうとしております。平成二十一年に建て替えを予定しており、本格的に準備が始



まったところでは、学校現場では、様々な障害のある児童生徒への細やかな対応が迫られました。学力向上への願いについては、他の市町村に先駆けて『サタデースクール』を始めました。次代を担う子どもたちが、健やかに成長するためにも、幼児教育や学校教育の更なる充実を願っております。

生涯学習においては『まなびの館エコーみよた』を開館して以来、順調に利用者を伸ばし、図書館では、開館以来、図書の出し出し数が十万余冊に、博物館でも入場者が十万人となり、記念イベントを行うことができました。

『まなびの館エコーみよた』が町民皆様の文化活動の拠点として益々発展する事を願っております。これからは、一町民として、今までもお世話になつたご恩に報いるため、微力ながら尽くして参りたいと思ひます。

最後になりましたが、町民の皆様のご健勝を心からご祈念申し上げます。辞任の挨拶といたします。